日本生物学的精神医学会

会員通信　第47号

目　次

1．日本生物学的精神医学会理事会議事録　倉知正佳（理事長）

日本生物学的精神医学会理事会議事録

日　時：2006年9月14日（木）9：00～12：00
場　所：名古屋国際会議場2号館2階「会議室221」
出席者：14名
倉知正佳（理事長），尾崎紀夫，染矢俊幸，武田雅俊，西川徹，松岡洋夫，三國雅彦，山脇成人，大森哲郎，前田潔，渡辺義文，野村総一郎，（以上理事）
大久保善郎（以上監事），岡崎祐士（第28回学会会長），小山司（第29回学会会長）
欠席者：6名
神庭重信，丹羽真一，齋藤利和，中村純（以上理事），林拓二（以上監事）
（順不同，敬称略）

議　題：
1．前回（2006/2/24）理事会議事録承認について
2．理事長報告
3．各委員会報告
（1）総務委員会（武田理事，大森理事）
（2）国際交流委員会（神庭理事，齋藤理事）
（3）編集委員会（松岡理事，野村理事）
（4）財務委員会（三國理事，前田理事）
①2005年決算報告
②2006年予算案
（5）倫理委員会（尾崎理事，丹羽理事）
（6）将来計画委員会（渡辺理事，山脇理事）
4．学会賞選考の件（染矢理事，西川理事）
5．国際学会発表奨励賞選考の件（染矢理事，西川理事）
6．WFSBP報告（尾崎理事）
7．第28回年会準備状況報告（岡崎会長）
8．第29回年会準備状況報告（小山次期会長）
9．第30,31回年会開催について（倉知理事長）
10．その他

1．前回理事会（2006/2/24）議事録承認について
議事録（案）が配布された。後日，訂正箇所があればご指摘いただくこととした。

2．理事長報告（倉知理事長）
倉知理事長より，挨拶があった。
事前に評議員に対し実施した「日本生物学的精神医学会の運営に関するアンケート」に関して説明され，委員会報告後の審議事項として議論したいことが説明された。また，合同年会期間中に三学会合同の懇談会が開催される予定であることが説明された。
今後，関連領域との関係についての方針，WFSBP，SOBPやアジアのBPなどとの連携・協力の強化，トランスレーショナルな研究の推進などが懸案事項となることが確認された。
また，第28回日本生物学的精神医学会年会の成功に対し岡崎会長に感謝が述べられた。

3．各委員会報告
（1）総務委員会（武田理事）
1）物故会員の報告
物故会員について以下の通り報告された。
赤川　祐典（興生会横手興生病院）
今道　裕幸（新阿武山病院）
宮崎眞一良（阪南病院）
鳩谷　　龍（水口病院）
2）会員異動報告
2006年8月31日現在で1,555名の会員がいる

ことが報告された。

内訳：名誉会員　11 名
評議員　187 名
正会員　1,354 名
賛助会員　3 社

3）新入会員の報告

新入会員 29 名が報告され，承認された。

（2）国際交流委員会（倉知理事長）

1）Hong Kong Society of Biological Psychiatry

香港で BP 学会が立ち上がるということで，協力要請があったことが報告された。染矢理事が講演を予定している。

2）第 6 回国際老年精神神経薬理学会

以下の要領で開催されることが報告され，多数の参加が要請された。

会期：2006 年 10 月 4 日（水）～6 日（金）
会場：広島国際会議場（広島県）
会長：山脇　成人（広島大学大学院精神神経医科学）

3）SOBP（アメリカ）の会告と合同シンポジウム

演題募集締切：2006 年 10 月 31 日

JSBP として中心となってシンポジウムを開催したいが，日本精神神経医学会の総会と日程が重なることから，2007 年度については困難が予想され，2008 年度に向けて準備することとなった。

今後の協力については継続的に検討されることとなった。

（3）編集委員会（松岡理事）

1）機関誌の刊行について

順調に発行している。本学会シンポジウムの掲載の他，12 月には新企画を組み，アジアの BP の抄録も掲載予定。また，国際学会発表奨励賞受賞者にミニレビューを執筆いただく予定である。

2）学会の抄録集の扱い

近年は合同学会であるので抄録集の掲載が難しい。英文抄録は，PubMed に載らずあまり意味がないため（PubMed 掲載には年間 6 号の刊行が必要）掲載しない。「BP シンポジウム」のほか，「合同シンポジウム BP」，「教育講演」も掲載すべきとの意見があった。特に教育講演についてはぜひ文章にすべきとの意見があったが，執筆依頼のルールが特になく，実質的な面で問題がある。そのため非会員への謝金などについて協議され，来年は事前に依頼した上で，非会員で執筆を望まない講師については講演のテープ起しをすることとなった。今後について，非会員講師への謝礼金について見当され，原稿料として 2・3 万円程度，テープ起しの場合の校正料は 1 万円ではどうかなどの意見があったが，金額については編集委員会に一任されることとなった。なお，謝礼金の支出は来年度よりとなる。

4）ホームページの件

理事長の挨拶（英文）などをリニューアル中である。

（4）財務委員会（三國理事）

1）2005 年度決算について，収入はほぼ予算通り 14,490,672 円となっていることが報告された。2005 年度決算は林，大久保両監事により監査され，適正に処理されていることが認められ，承認された。

2）2006 年度収支予算案については，前年度の実績を踏まえて計上したことが報告され，承認された。WFSBP に関連して理事会交通費が WFSBP から出ない場合には予備費から出費する。

また，アジアからの研究者を招聘した場合のトラベル・アワードについて提案があった。アジアとの交流を恒常的にするためにも必要である，トラベル・アワードとして 1 名 10 万円とし年会毎に 30 名程度を招聘し，その半額を本学会が負担するという方向になった。そのためには，振興基金のようなものが必要であり寄附を集めるためにも法人化が必要になる可能性があり，総務委員会にて改めて検討されることとなった。取り急ぎ，アジアからの研究者のためのトラベル・アワードの原資として，平成 19 年度の予算

で150万円を基金に支出することとした。

（5）倫理委員会（尾崎理事）

学会発表における倫理規定を作成し，会則に追加・反映させた会運営に反映させたことが報告された。

（6）将来計画委員会（渡辺理事）

製剤メーカーとの協力により，創薬のテーマでシンポジウムを開催することを検討しており，今年会期間中にも会合を開催する予定である。また，年度内を目標にセミ・オープンのシンポジウムを開催することが承認され，引き続き検討されることとなった。

（7）その他

①副理事長の設置

倉知理事長より今後の懸案事項となっている色々な連携のために担当する副理事長おくという提案があり，了承された。国内関連学会との連携担当の副理事長として総務委員長の武田理事，トランスレーショナルな研究推進担当の副理事長として三國理事が推挙され，承認された。また，国際交流担当の副理事長（国際学会のシンポジウムの企画など）の人選は保留とされた（翌9/15の評議員会で神庭理事が推挙され，承認された）。

②今後の学会の方向性について：

岡崎理事：合同年会実施にはスケジュールが組みにくいという欠点があるが，視野が広がるという利点があり，意義はある。

武田理事：昨年度の年会では特に問題はなかった。主体性という点では，本学会の年会開催時期が変更になっているのが問題である。また，日本神経化学会では一緒にやりたいという意向がある。似たようなサイズの緩やかに合同しながらしばらくやっていくというが良いのではないか。

野村理事：若手研究者は多忙であるので，活動のためには合同であることが必要。近い将来の合併も見定めて検討すべき。

中村理事：合同のために大規模学会になると地方などの理事・評議員には会長が出てくるのが無理となる。

三國理事：臨床を重視しながらサブスペシャリティーの学会が合同していくのは意味がある。特定の学会と継続するのでは合体すればいいのであってオリジナリティーを持って色々な学会とするほうがいい。

大森理事：学会数が多く全てに出席するのが困難であるので合同には意味があるが，毎回一緒にやるのは問題ではないか。

西川理事：連合して年会を開催することには積極的に賛成。色々な連合するにあたってそれぞれの学会の特色をもって連合すべき。合併という形ではなく，合同年会などを通して協力することが必要。

松岡理事：若手の研究者のなかで今回は薬理・化学は専門でないから参加しないという人もいた。生物学的精神医学会はいろいろな学会との架け橋的な学会になるべき。

染矢理事：同時開催という形で実施していくのが良い。サブスペシャリティーの学会として個別の研究成果を発表する場があるべき。

大久保監事：一緒に開くのは良いこと，臨床と基礎が混ざっていることが良い。一方で独自の領域もあるので開催を並列するという形が良い。

前田理事：結論を早急に出すべきではない。合同年会に対する参加者の意識を調査する必要がある。色々なセッションを聞ける機会があるという意義があるが，毎年同じ学会と連携では帰属意識が薄くなる。隔年ないし3年に1回で色々な学会と合同開催するのが良いのではないか。

渡辺理事：具体的に合同年会について検討するときに，どういった学会と連合するかなどが難しいが，少し広げて検討してはどうか。また，運営の内容について決まりが必要ではないか。

山脇理事：連携することに反対する人はいないと思うが，デメリットとして理事会など会議が多く主要な人ほどセッションに出られない，規模が大きくなり都会でしかできないということが出てくるかもしれない。毎回同じ学会とや

ることはない。

小山次期会長：少なくとも１日は独自のプログラムを組めるようにしたい。

倉知：まとめ①ゆるやかな連携が良い。同時期開催，会期中の一定の期日は独自のプログラムとする。②毎年合同にする必要はないのではないか。地方都市でやる意義もあり考慮すべき。③色々な学会と連携すべき。特定の学会と連合しなくとも良いのではないか。

４．学術賞選考の件

第14回日本生物学的精神医学会学術賞受賞者について応募者がいなかったため該当者がいないことが報告された。今後はホームページ等に掲載し，積極的に広告していくことが必要である。

５．国際学会発表奨励賞選考の件

国際学会発表奨励賞について，2005年度後期・2006年度前期受賞者の表彰は9月15日19：00より3号館地下「カスケード」にて行われる予定である。

受賞者は以下の通りである。

＜2005年度後期＞

受賞者：池田　匡志（名古屋大学大学院医学研究科精神生物学分野）

学会名：World Congress on Psychiatric Genetics XII

発表演題：No association of haplotype-tagging SNPs in TRAR4 with Schizophrenia in Japanese patients

＜2006年度前期＞

受賞者：髙橋　英彦（放射線医学総合研究所分子イメージングセンター）

学会名：12th Annual Meeting of Human Brain Mapping

発表演題：Hippocampal dopamine D2 receptors are related to memory and cognitive functions

受賞者：堀　広子（産業医科大学精神医学教室）

学会名：American Psychiatric Association

発表演題：Association study between a functional NAD(P)H：quinine oxidoreductase（NQO1）gene polymorphism（Pro187Se）and tardive dyskinesia

６．WFSBP報告（倉知理事長）

①2nd WFSBP International Congress of Biological Psychiatry

Santiago, Chileで開催される上記大会に本学会として以下のシンポジウムを企画し受理された。

Title：Pathogenesis of Schizophrenia

Chairperson：N. Ozaki（Japan），R. Hashimoto（Japan）

Speakers：R. Hashimoto（Japan）

C. S. Weickert（U.S.A）

T. Jun（Korea）

シンポジストの旅費については，本学会企画のシンポジウムであり，前回理事会の決定でもあるので支出する。

また，それとは別の野村理事提案のシンポジウムについて，一部援助することになった。但し，今後については事前に理事長承認が援助支出の際に必要となる。

②9th WFSBP

期間：2009年6月28日～7月2日

場所：パリ

７．第28回学会準備状況報告（岡崎会長）

進行中である第28回年会について以下の通り報告された。

会期：2006年9月14日（木）～16日（土）

会場：名古屋国際会議場（愛知）

共催：第49回日本神経化学会　鍋島俊隆会長（名古屋大学）

第36回日本神経精神薬理学会　尾崎紀夫会長（名古屋大学）

3学会合同ということもあり，参加者が多く，盛会である。

また，最終日までに優秀発表賞を選出し，表彰する予定であること，その審査対象から「脳と精神の医学」への掲載を推薦することが報告

された。

８．第29回学会準備状況報告（小山理事）

第29回年会について以下の通り報告された。

会期：2007年7月11日（水）～13日（金）

会場：札幌コンベンションセンター（北海道）

会長：小山　司（北海道大学大学院医学研究科精神医学分野）

なお，第37回日本神経精神薬理学会年会（吉岡充弘会長）との合同開催となる。

９．第30回・第31回年会開催について（倉知理事長）

現理事・監事の中から数名が推薦され，投票の結果，第30回年会会長として倉知正佳（富山大学医学部精神神経医学）が選出され，承認された。

第31回についても検討されたが，次回決定することとなった。

以上にて閉会